

## 2016年度派遣留学体験談

国際学部国際文化学科 2年

館 海香子

私は本学の派遣留学制度に参加し2016年8月29日から2017年1月7日まで中国に留学した。今回の留学は、私にとって初めての海外渡航であり不安でいっぱいのスタートとなった。最も苦労したことは、やはり言葉の壁である。大学1年生の後期から中国語を選択し約1年間学んできたが、いざ会話をしようとなると思うように単語が出てこず、受け答えも満足にすることが出来なかった。その為、授業で先生から質問された時やクラスメートや中国人と会話の時に、聞き取ることや言いたいことをしっかり伝えるということができなかった。自分の話した中国語が伝わらないと、「発音が間違っていたらどうか」、「使う単語は違ったのか」と不安になり会話を切り上げてしまうことも多かった。しかし、中国で生活し、毎日中国語を聞き話す中でこの問題も徐々に解消されていった。生活する上でよく使用する単語は耳に残り、聞き取れるようになった。また、語彙数が増えたことで会話の中で聞いたことがある単語の数が増え、相手の話していることが瞬時に理解できることが多くなった。聞き取れるようになったことで、受け答えができるようになり、さらには自分の意図が相手に伝えられるようになり本当に嬉しいと感じた。中国で生活したことで日常会話から生きた中国語を学ぶことが出来た。

私たちの留学先である北京師範大学には多くの日本人学生が学んでいる。中国語がつかない私たちは、手続きや各種イベント、帰国の搭乗手続きの最後の瞬間まで多くの日本人学生にお世話になった。中国語が堪能な日本人学生がいるということはとても心強かった。しかし、彼らに頼りすぎてしまったことが私の反省点でもある。留学初期に中国人学生と交流したという機会があったにも関わらず、私は積極的に連絡を取らず連絡しやすい日本人学生と遊びに行くことが多かった。もちろん経験豊富な日本人学生から中国について教わるなど貴重な体験をさせてもらったが、中国人学生ともっと関わることができたなら、自身の中国語能力をさらに向上させることが出来たと思う。それでも、日本人学生と交流できて良かったこともたくさんある。私は同じ寮に滞在する1つ年上の日本人留学生と親しくなった。彼女は中国語が堪能で、あらゆる面で助けてもらった。私は12月の下旬にHSK4級のネット試験を受験したが、その際に使用した過去問題集は中国語の解説のみであり一人で理解することができなかった。文法などの細かい説明はやはり日本語で説明してもらわないと理解しにくいということもあり、彼女に何度も文法を教えてもらった。その結果、短い期間で確実に能力が向上し、HSK4級に合格することが出来た。その他、通訳をしてもらったり、勉強のコツなどを彼女から教えてもらった。このような経験から、私は現地で中国語の堪能な学生と親しくなり助けてもらいながら学習することも、中国語を上達させるための良い経験であったと感じた。

中国の国土面積は日本の約 25 倍であり、さらに 56 の民族が共存する他民族国家である。それぞれの地域に独自の文化があり、それらはまったく異なっていると感じた。10 月 1 日から約 1 週間中国は国慶節で、大学は約 1 週間の休みとなった。その期間を利用して、私は内モンゴル旅行に参加した。内モンゴル自治区では、モンゴルを連想させる民族衣装や、乳製品を主としたお土産が売られているなど、北京とはまったく違う文化を体験することが出来た。その一方で、訛りはあるものの言語は中国語を使用しており、ここは中国の一部なのだと感じることも出来た。草原で乗馬を体験し、砂漠ではラクダに乗るなど、普段体験できない中国の雄大な自然を肌で感じた。滞在していた北京市内にも、観光地はたくさんある。9 月中旬ころ、副班主任である何さんが私たちを天安門や故宮、北海公園へと案内してくれた。故宮は大きな宮殿であり、1 日ですべてを見ることはできない。実際に、私たちは故宮を通り抜けたのだがそれだけでも半日ほどかかりとても疲れた。故宮見学後、向かいの景山公園の山を登り、故宮を見下ろした。山の上から見る故宮は壮大で、疲れも吹き飛ばすほど美しかった。別の日には友達とオリンピック公園に行くなど、私はこの留学で、テレビでしか見たことのなかった中国を思う存分体験することができた。

私が中国で最も驚いたことは、中国は日本と比べて人と人の距離が近いということである。中国語は尊敬語や謙譲語が日本ほど厳格ではない。だからこそ、どの年齢の人とも話しやすいと感じた。また私ははじめ、中国人は反日感情を持っている人がいまだに多いのではないかと思っていたが実際に生活してみるとそれは全く違っていった。例えば、私が日本人であると気づくと、自身の知っている日本語で話しかけてくれるというようなうれしいことも体験できた。中国で出会った多くの人々は日本に対してよい印象を持っていた。日本では、中国に対するニュースは大方良い印象を与えるものではない。だからこそ私は、このような中国人の本当の姿をもっと日本人に知ってもらいたいと思った。

今回の留学を通して、私は中国語能力を向上させることができただけでなく、生活し中国人と交流することで本当の中国を知ることができた。この経験から私は、多くの人に中国に対してよい印象を持ってもらいたいと感じた。しかし、4 か月という滞在期間は決して長くない期間であり、私が知らない文化や地域がまだまだ中国にはたくさんある。だからこそ、私は中国に対する教養をさらに深めると同時に日本の文化を中国に紹介し、互いに良い印象をもてるような日中関係を構築できるよう貢献していきたい。